国際宇宙ステーション計画

平成19年度概算要求額　：　19,364百万円
（平成18年度予算額）　：　19,477百万円
※運営費交付金中の推計額を含む

（1）国際宇宙ステーション(ISS)の概要

・日本、米国、欧州、カナダ、ロシアの5極共同での平和目的の国際協力プロジェクト。
・低軌道（約400km）の地球周回軌道上で組み立てられる有人ステーション。
・我が国は、日本実験棟（ Japanese Experiment Module　、愛称「きぼう」）を提供する。

（2）国際宇宙ステーション計画の経緯及び今後の予定

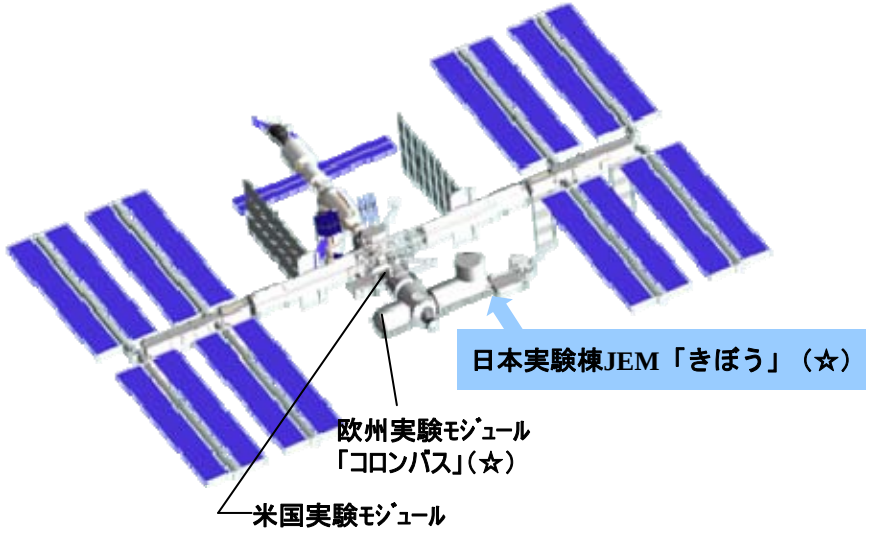
昭和59年 1月　レーガン米大統領が有人宇宙ステーションの建設を提唱。
日本、欧州及びカナダに参加を招請。
昭和63年 9月　日、米、欧、加の4極の間で宇宙基地協力協定に署名。
平成10年 1月　日、米、欧、加、露の5極の間で新しい宇宙基地協力協定に署名。
11月　最初のISS構成パーツを打上げ。
平成12年10月　若田宇宙飛行士、ISS組立ミッションフライトに搭乗。
11月　第1次搭乗員によるISS長期滞在開始。
平成13年 3月　我が国初の実験装置（中性子モニタ装置）打上げ、実験開始。
8月　我が国初のISS民間利用の高精細度テレビカメラ打上げ。
平成15年 6月　「きぼう」船内実験室を米国航空宇宙局ケネディ宇宙センターに搬入。
平成17年 7月　野口宇宙飛行士、スペースシャトルディスカバリー号に搭乗。
平成18年 3月　参加極間でセントリフュージ削除を含むISSの見直しに合意。
平成18年 5月　「きぼう」打上げ1便目のスペースシャトルに土井宇宙飛行士の搭乗決定。
同ミッションを地上から支援する搭乗者支援宇宙飛行士に山崎宇宙飛行士が決定。
平成19年度頃　「きぼう」打上げ予定（3回に分けて実施）。
※現在ISSには第13次長期滞在員3名が滞在している。

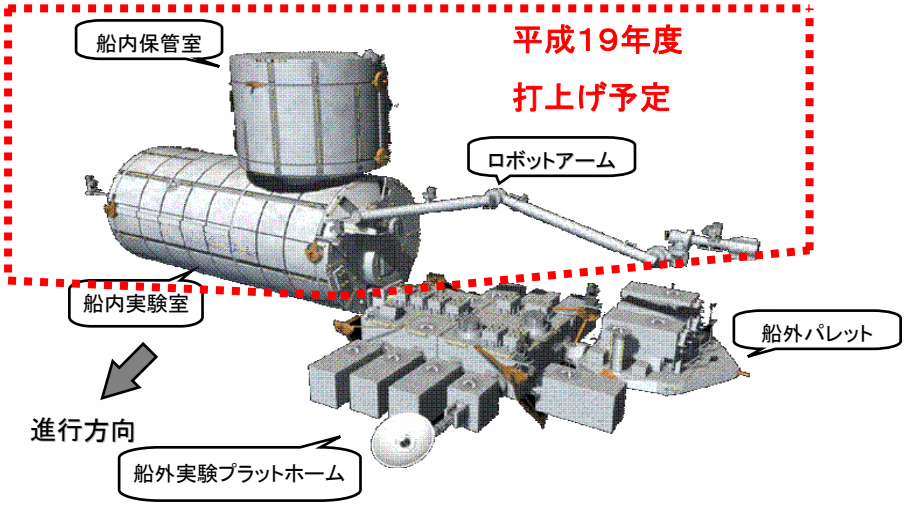
（3）国際宇宙ステーション計画の意義

①有人宇宙技術をはじめとする広範な技術の高度化等の促進
②経済社会基盤の拡充
③新たな科学的知見の創造
④国際協力の推進

（4）国際宇宙ステーション計画の平成19年度概算要求概要

○日本実験棟（JEM）開発・運用・利用
・JEMの開発
・宇宙ステーション共通実験装置の開発
・JEM運用システムの開発
・JEMの運用
（効率化を図り縮減）
○宇宙環境利用関連研究等



国際宇宙ステーション完成予想図　（☆：今後打上げ予定のもの）

日本の実験棟　JEM（愛称「きぼう」）の概要